

カオハガン島のボランティアに参加して

伊東彰仁

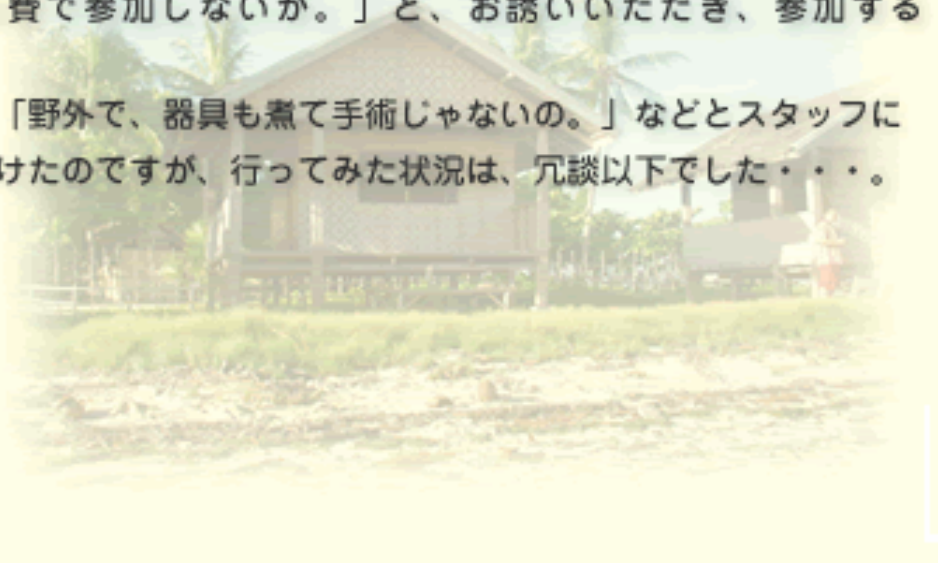
カオハガン島は、フィリピンのセブ空港のあるマグタン島から小型のエンジン付ボートで約1時間のところにある、周囲が2km、人口300人程度の小島です。島のオーナーは崎山氏という日本人で、約10年程前にこの島を購入したそうです。購入に際して、この島の人をどうするかという問題で、彼は共存の道を選択しました。

かつてこの島では犬を食料にしていたそうですが、その習慣がなくなり、犬をペットとして飼い始めるようになって、久しく時間が経過しました。当然の結果として、犬にとって快適な環境がもたらされ、その数は増え続ける結果となりました。現在島では狂犬病の発生は見られませんが、一旦入り込むと狭いだけに厄介な存在となりうるため、狂犬病ワクチンの接種と、繁殖に歯止めをかける目的で、避妊、去勢手術が必要となります。

しかしながら、島民はほとんどが自給自足で、わずかなペソ（1ペソは約2円）の獲得手段として、アイランドホッピングで訪れるダイバーに、昼食の提供と工芸品の販売（少し押し売り気味）、それと島の女性の作る「キルト」の販売が行われているに過ぎません。わずかに得られた収入は、生活に必須な物資、主に米、燃料、水の購入にあてられ、とても犬にかけられる費用はありません。

こういった状況に見かねた日小獣理事の石黒先生から、「野戦病院で手術をすることになるが、自費で参加しないか。」と、お誘いいただき、参加することになりました。

渡比前にうちの病院で、「野外で、器具も煮て手術じゃないの。」などとスタッフにジョークを言われて出かけたのですが、行ってみた状況は、冗談以下でした・・・。





今回の実績

1日半で総数28頭（内訳：犬♂12、♀6、猫♂9、♀1）予定では3日間でしたが、ヒビテンとアルコールが底をついたため、以降断念。島の子供に、捕獲してきたら1頭50ペソの賞金をつけたため多く集まりましたが、予備軍をも誕生していますので、更なる継続が望まれます。最後にここの犬猫は決して野良ではありません。ちゃんと飼い主がいて、手術に際して不安も持っていますし心配もしています。私たちが病院で診る患者さん方と、何の変わりがあるわけではありません。決して失敗していいというような状況でなかったことを申し添えておきます。

COPYRIGHT(C)2006 イトペットクリニック ALL RIGHTS RESERVED.